

学生のダンスや身体表現についての意識や自己評価に関する研究

宮下 恭子

【研究目的】

ダンスの教育は知的活動を伴った創造的な表現活動であり、身体運動によって自己を表す自己表現としての表現教育でもある。¹⁾ 幼児は音楽に合わせて踊ったり、キャラクターに変身する模倣遊びをしたり、即興でダンスや動きを表現して楽しむことが好きである。リズム遊びや創造性豊かな模倣遊びは心身の調和的発達を促進するものであるため、保育者を目指す学生にとって、ダンスや表現について学び指導力を身につけることは必須の課題である。

筆者は、保育者を目指す学生に「幼児のダンスや表現運動の指導」についての教育を行っている。そして、継続的に受講した学生に「ダンスに関する意識の調査」^{2) 3)} を行い、学生自身のダンスに対する意識や自己評価、保育者になった時の指導についての期待や不安などについて分析、検討してきた。2007年、2008年に調査した結果^{4) 5) 6)} からは、ダンスの好き嫌いと得意不得意は関連性がない、また、ダンスの好き嫌いや得意・不得意とダンス表現の自己評価には比較的関連性があることなど明らかになった。さらに、保育者に必要な表現やダンスの資質とは、「保育者自身が楽しくこと」という心情が最も多く挙げられ、次いで「動きのダイナミックさ」や、「はっきり、豊かに、自身をもって表現する」表現力が多く挙げられていた。

本研究は、これまでの調査「ダンスに関する意識の調査」を基に新たに作成したアンケート調査票によって、継続的に学生の表現やダンスに関する意識について調査し、保育専攻の学生のダンスや表現に関する自己評価を把握し、学生の学修時の困難や躓きについても明らかにすることである。その結果を踏まえ、現在実施している授業内容の点検を視野にいれて、保育者の身体表現力を高める表現運動のあり方や、幼児にふさわしい表現運動の指導内容を検討し、学生が保育者となった時に自信を持って指導に臨めるようなカリキュラム構成や保育者に必要なダンスの資質の向上に役立てようとするものである。

調査内容は、幼児に指導することを前提とした学生自身の表現やダンスに対する意識や自己評価、授業に対する取り組み方などであった。

【研究方法】

調査期間：2010年7月

調査対象：東京都T S短期大学2年生 146名

調査方法：表現・ダンスに関するアンケート調査

調査内容と回答方法：

1 ダンス全般について（3件法と自由記述）

① 好き嫌いとその理由

- ② ダンスの得意不得意とその理由
 - ③ ダンスを踊ること好き嫌いとその理由
 - ④ 学校の授業以外にダンスを習った経験の有無（2件法） ダンスの種類と経験年数（自由記述）
- 2 授業で行った表現についての難易（4段階評定法）
- ① 動きや運動で表現すること
 - ② 動きを考えること
 - ③ テーマにあった構成を考えること
 - ④ グループで協力して活動すること
- 3 ダンスや表現能力についての自己評価（5段階評定法）
- ① リズミカルに動くこと
 - ② 動きを覚えること
 - ③ 動きを考えること
 - ④ 考えを動きで表すこと
 - ⑤ イメージやアイデアを描くこと
 - ⑥ 音楽に合わせて踊ること
 - ⑦ グループのリーダーになること
- 4 ダンスや表現運動と自分の感性との関係（4件法）
- 5 保育者になった時のダンスや表現運動との関わり（①、②は4件法 ③は3件法）
- ① 子どもにダンスや表現を教えること
 - ② 子どもと一緒にダンスを踊ること
 - ③ 他の運動遊びの指導との比較

授業内容と課題：

- ① 準備運動としての「創作リズムダンス」
- ② 基本のダンスステップ（数種類）の練習、文字や形を作る表現
- ③ 動くものを表現する「乗り物ごっこ」
- ④ リズムを表現する「8拍のリズム」、「からだのリズムセッション」
- ⑤ 日常動作をダンスにする「料理」
- ⑥ お話を表現する「親しみのある童話や昔話」
- ⑦ 遊具を使った表現（ボールを使って）「万華鏡」
- ⑧ 遊具を使った表現（フープを使って）「遊園地」
- ⑨ 遊具を使った表現（パラバルーン）「形とその変化」
- ⑩ 幼児と一緒に踊るフォークダンス「キンダーポルカ、ストップガロップ他」
- ⑪ 最終課題として、グループによる表現「サマータイム」…企画、練習を含め3回
- ⑫ 発表と観賞 次週に観賞、評価のためビデオ撮りをする
- ⑬ 全課題についてのレポートと最終課題のビデオ観賞による自他グループの評価

【結果と考察】

1 ダンス全般について

① 好き嫌いとその理由

ダンス全般について、「好き・どちらでもない・嫌い」（3件法）とその理由（自由記述）を尋ねた結果は、図1、表1、表2、表3に示す。

表1 ダンスの好き・嫌いの人数と割合

問1	人数	割合
嫌い	7	4.8%
どちらでもない	63	43.2%
好き	76	52.1%
計	146	100.0%

図1 ダンスの好き・嫌い

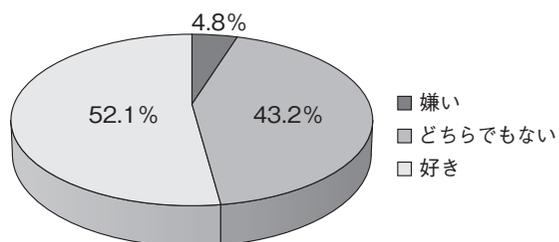


表2 ダンスが好きな理由とその人数

ダンスが好きな理由（複数回答あり）	人数
からだを動かすことが好き	26
踊るのが好き	10
見て楽しい	6
ダンスを習ったことがある	6
音楽やリズムによって踊ることが好き	4
かっこいい	4
みんなで踊るのが楽しい	3
グループで考えるのが楽しい	3
わくわくする	2
その他（好きなダンサーがいる、音楽が好き、盛り上がる、できると楽しい、疲れない、授業のダンスは好き）	6

表3 ダンスが嫌いな理由とその人数

ダンスが嫌いな理由（複数回答あり）	人数
リズム感がない	2
ステップができない	1
踊れない	1
表現の仕方がわからない	1
協調性に欠ける	1
人と接触するのが嫌い	1

ダンスが全般に好きであるかどうかについての質問では、半数以上の学生が「好き」と回答し、「どちらでもない」との回答も多く、「嫌い」な学生はわずか4.8%であった。また、好きな理由では、「からだを動かすことが好き」、「踊るのが好き」、「音楽やリズムによって踊ることが好き」など、踊ることが好きな理由が多く見られた。嫌いな理由では、「リズム感がない」、「ステップができない」、「踊れない」など、動きの面での理由が挙げられていた。

② ダンスの得意不得意とその理由

ダンスの得意・不得意について、「得意・どちらでもない・不得意」（3件法）とその理由（自由記述）を尋ねた結果は、図2、表4、表5、表6に示す。

ダンスが得意か不得意かについては、「得意」と回答した学生はわずか9.6%であり、「不得意」な学生は31.1%であった。

得意な理由は「以前からやっている」が最も多く、「好きだから」、「踊るのが好きだから」など、経験によるものが示されている。また、嫌いな理由は多くあり、「リズム感がない」が最も多く、「覚えられない」、「動きがわからない」、「ステップがわからない」、「踊れない」など、動きができないことや、「上手に踊れない」、「ぎこちない」など、自分の動きに満足できないことなどが挙げられている。

表4 ダンスの得意・不得意の人数と割合

問2	人数	割合
不得意	46	31.5%
どちらでもない	86	58.9%
得意	14	9.6%
計	146	100.0%

図2 ダンスの得意・不得意

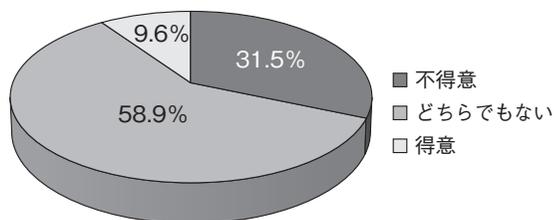


表5 ダンスが得意な理由とその人数

ダンスが得意な理由（複数回答あり）	人数
以前からやっている（過去にやった経験がある）	5
好きだから	3
踊るのが好き	2
直ぐに覚えられる	1
笑顔でいられる	1

表6 ダンスが不得意な理由とその人数

ダンスが不得意な理由（複数回答あり）	人数
リズム感がない	14
覚えられない、動きがわからない、体の動かし方がわからない、技術がわからない、動きが思いつかない	7
上手に踊れない、動きにキレがない、ぎこちない、難しい	7
ステップができない、踊れない、動けない、体が動かない	4
ダンスの経験がない	4
運動神経が悪い	2
嫌い、運動が嫌い	2
運動が苦手、踊ることが苦手	2
体が硬い	1

③ ダンスを踊ること好き嫌いとその理由

ダンスの得意・不得意について、「得意・どちらでもない・不得意」（3件法）とその理由（自由記述）を尋ねた結果は、図3、表7、表8、表9に示す。

図3 ダンスを踊ること

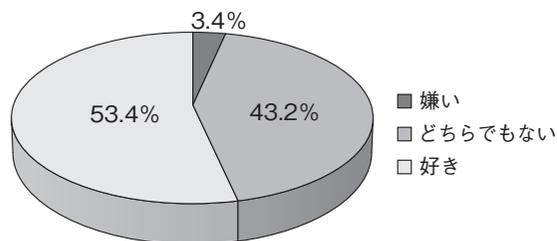


表7 ダンスを踊ることの好き・嫌いの人数と割合

問3	人数	割合
嫌い	5	3.4%
どちらでもない	63	43.2%
好き	78	53.4%
計	146	100.0%

ダンスを踊ることが好きな学生は半数以上であり、嫌いな学生はわずか3.6%であった。ダンスの好き・嫌いと同様の傾向であった。

表8 ダンスを踊ることの好きな理由とその人数

踊ることが好きな理由（複数回答あり）	人数
楽しい	33
体を動かすことが好き	8
みんなで振り付けを考えたり、踊ったりが楽しい	7
音楽に合わせて踊る	3
好き（下手だけど好き、見るのは好き、好きだから）	3
覚えて踊れた時が楽しい	2
部活でやっていた	2
見ていてカッコイイ	2
気分が上がる	2
気分爽快、嫌なことを忘れる	2
自由に踊れる、表現できる	2
その他（芸能人の踊りができると嬉しい、おもしろい、笑顔になれる、団結できる）	4

表9 ダンスを踊ることの嫌いな理由とその人数

踊ることが嫌いな理由（複数回答あり）	人数
動けない	2
考えと動きが一緒にならない	1
ステップができない	1

踊ることが好きな理由では、「楽しい」が圧倒的に多く、また「みんなで踊ることが楽しい」など、楽しめることが多く挙げられている。嫌いな理由では、動きができない理由が挙げられている。

④ 学校の授業以外にダンスを習った経験の有無とダンスの種類と経験年数

学校の授業以外にダンスを習った経験の有無（2件法）は図4と表10に示す。ダンスの種類と経験年数（自由記述）は表11に示す。

学校の授業以外にダンスを習った経験のある学生は少なく17.1%であった。また、習ったダンスの種類ではヒップ・ホップが最も多かった。経験年数は様々であるが長い学生は10年であった。次いで多いのがジャズであり、経験年数は同様に長い学生では10年であった。

図4 ダンスを習った経験

表10 ダンスを習った経験の有無（人数・割合）

問4	人数	割合
ない	121	82.9%
ある	25	17.1%
計	146	100%

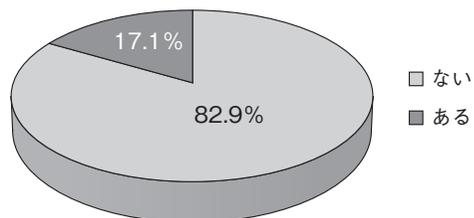


表11 習ったダンスの種類と人数、経験年数

習った（習っている）ダンスの種類	人数	経験年数
ヒップ・ホップ	13	2ヶ月～10年
ジャズ	8	1年～10年
チア	7	2年～7年
クラシックバレエ	3	不明～9年
ガールズ	3	1年～3年
日本舞踊	2	1年、5年
その他（ロック、スタント、よさこい、エアロビ、新体操）	4	2年～8年

⑤ ダンスの好き・嫌いとは得意・不得意との関係

ダンスの好き・嫌いとは得意・不得意との関係について、図5、表12に示す。

図5 ダンスの好き・嫌いとは得意・不得意

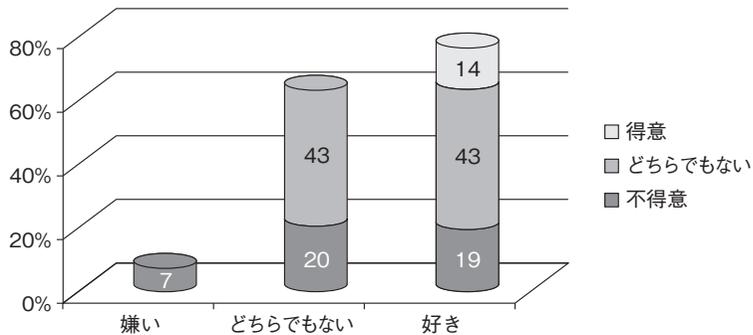


表12 ダンスの好き・嫌いとは得意・不得意との関係 (人数)

	不得意	どちらでもない	得意	総計
嫌い	7	0	0	7
どちらでもない	20	43	0	63
好き	19	43	14	76

ダンスが「嫌い」と回答した学生は全員ダンスが「不得意」と回答している。また、「どちらでもない」と回答した学生では「得意」とする者はいないが、「好き」と回答した学生では「得意」と回答する学生が14名いた。したがって、ダンスが好きな学生の方が、得意になる人が増えることが推察される。

⑥ ダンスの好き・嫌いとは踊ることの好き嫌いとの関係

ダンスの好き・嫌いとは踊ることの好き嫌いとの関係について、図6、表13に示す。ダンス全般が嫌いな学生は踊ることも嫌いな学生が約半数いるが、ダンス全般が好きな学生はほとんどの学生が踊ることも好きであることがわかる。どちらでもないという学生は踊る

ことも好きでも嫌いでもない学生が大半であることがわかる。

図6 ダンスの好き嫌いとうることの好き嫌い

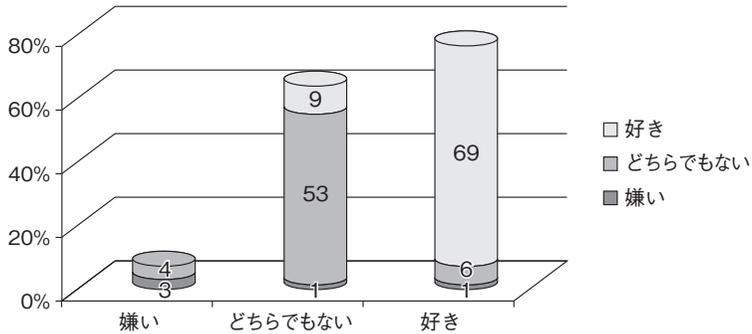


表13 ダンスの好き・嫌いとうることの好き・嫌いとの関係 (人数)

ダンス全般	ダンスを踊ること			
	嫌い	どちらでもない	好き	総計
嫌い	3	4	0	7
どちらでもない	1	53	9	63
好き	1	6	69	76

⑦ ダンスを習った経験とダンスの好き・嫌いとの関係

ダンスを習った経験とダンスの好き・嫌いとの関係について、図7、表14に示す。ダンスを習ったことがなくてもダンスが好きという学生は多いが、嫌いな学生も7名いる。ダンスを習ったことのある学生は嫌いな人はいないが、好きな人は21名と半数以上いる。つまり、習った経験がなくても好きな人は多く、また、習った経験が好きになるのか、好きだから習うのかは不明であるが、ダンス経験のあることがダンスを好きになる要因となると推察できる。

図7 ダンスを習った経験とダンスの好き・嫌い

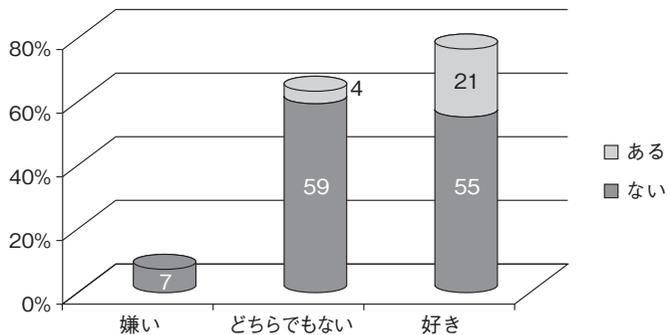


表14 ダンスを習った経験とダンスの好き・嫌い (人数)

ダンス全般	ダンス経験	
	ない	ある
嫌い	7	0
どちらでもない	59	4
好き	55	21

2 授業で行った表現について

授業で行った表現について、次の①～④の観点について「難しい」から「簡単」までの4段階から選択することを求めた。その結果は、図8、表15に示す。

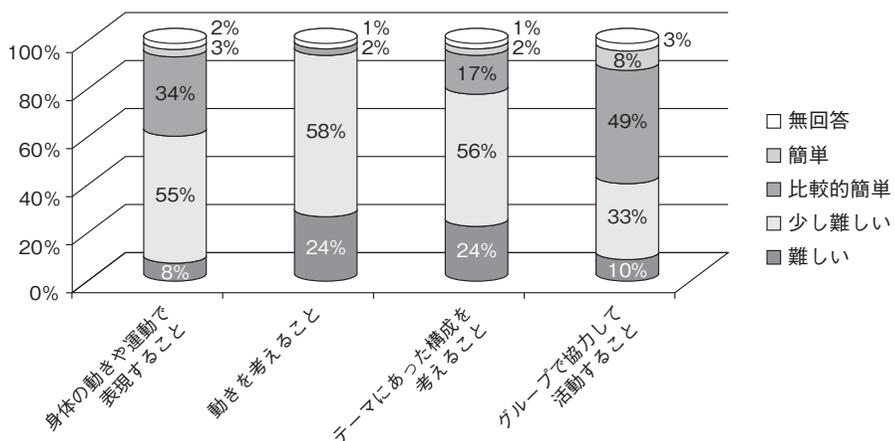
- ① 動きや運動で表現すること
- ② 動きを考えること
- ③ テーマにあった構成を考えること
- ④ グループで協力して活動すること

表15 授業で行った表現についての評価

	問2-①		問2-②		問2-③		問2-④	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
難しい	11	8%	34	24%	35	24%	14	10%
少し難しい	79	55%	83	58%	81	56%	47	33%
比較的簡単	48	34%	3	2%	25	17%	69	49%
簡単	5	3%	0	0%	3	2%	12	8%
無回答	3	2%	2	1%	2	1%	4	3%
計	146	100%	122	100%	146	100%	146	100%

授業で表現課題については、「少し難しい」、「難しい」との回答が多く、中でも、「動きを

図8 授業で行った表現



考えること」は「少し難しい」を含め82%の学生が、次いで「テーマに合った構成を考えること」は80%の学生が難しいと思っていた。「比較的簡単」や「簡単」と思ったことは「グループで協力して活動すること」であり、57%であった。「身体の動きや運動で表現すること」も63%の学生が難しいと思っていた。以上のことから、創作することの難しさが伺え、表現においては考えることとそれを動きで表現することが難しいようであった。また、一人でするよりもグループで活動することの方が考えを出し合ったり動きを考えたりするにはやり易いようである。

3 ダンスや表現能力についての自己評価（5段階評定法）

自分のダンスや表現能力について、次の①～⑦の観点について「高評価＝5」から「低評価＝1」までの5段階から選択することを求めた。その結果は、図9、表16に示す。

- ① リズミカルに動くこと
- ② 動きを覚えること
- ③ 動きを考えること
- ④ 考えを動きで表すこと
- ⑤ イメージやアイデアを描くこと
- ⑥ 音楽に合わせて踊ること
- ⑦ グループのリーダーになること

ダンスの自己評価で、高い評価（評価点4、5）の多い項目は「動きを覚えること」や「音楽に合わせて踊ること」であり、低い評価の多い項目は「動きを考えること」や「グループのリーダーになること」であった。考えることよりも踊ることの方が得意と考える学生が多いことが伺える。

図9 ダンス・表現能力の自己表現

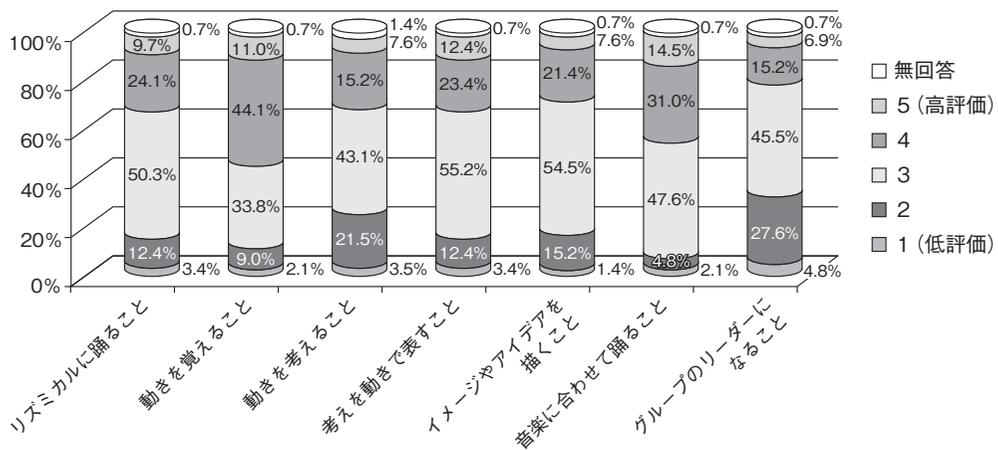


表16 ダンスの自己評価

評価	問3-①		問3-②		問3-③		問3-④		問3-⑤		問3-⑥		問3-⑦	
	人数	割合												
1	5	2.1%	3	2.1%	5	3.5%	5	3.4%	2	1.4%	3	2.1%	7	4.8%
2	18	4.8%	13	9.0%	31	21.5%	18	12.4%	22	15.2%	7	4.8%	40	27.6%
3	73	47.6%	49	33.8%	62	43.1%	80	55.2%	79	54.5%	69	47.6%	66	45.5%
4	35	31.0%	64	44.1%	35	24.3%	34	23.4%	31	21.4%	45	31.0%	22	15.2%
5	14	14.5%	16	11.0%	11	7.6%	18	12.4%	11	7.6%	21	14.5%	10	6.9%
無回答	1	0.7%	1	0.7%	2	1.4%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%
計	145	100%	145	100%	144	100%	145	100%	145	100%	145	100%	145	100%

4 ダンスや表現と自分の感性との関係

ダンスや表現と自分の感性との関係については、「全く関係ない」から「大いに関係ある」までの4段階からの選択を求めた。結果は図10、表17に示す。ダンスや表現と自分の感性との関わりでは、「関係ある」と考える学生が多く、「関係ない」と考える学生は少なかったことから、表現活動における感性の重要性を認識している。

図10 自分の感性との関係

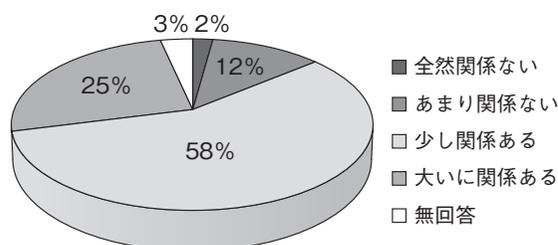


表17 ダンスや表現と自分の感性との関係

問7	人数	割合
全然関係ない	3	2%
あまり関係ない	17	12%
少し関係ある	84	58%
大いに関係ある	37	25%
無回答	5	3%
計	146	100%

5 保育者になった時のダンスや表現との関わり

保育者になった時のダンスや表現との関わりについて、次の①～③の観点について4または3件から選択することを求めた。その結果は、図11、表18に示す。(①、②は4件法 ③は3件法)

- ① 子どもにダンスや表現を教えること (4 = 積極的にやりたい、3 = 少しはやってみた)

- い、2 = あまりやりたくない、1 = 全くやりたくない)
- ② 子どもと一緒にダンスを踊ること (4 = 自信がある 3 = 少しは自信がある 2 = あまり自信がない 1 = 全く自信がない)
- ③ 他の運動遊びの指導との比較 (3 = ダンスや表現の方がやりやすい 2 = どちらも同じ程度 1 = 運動遊びの方がやりやすい)

図 11 保育者になった時の指導

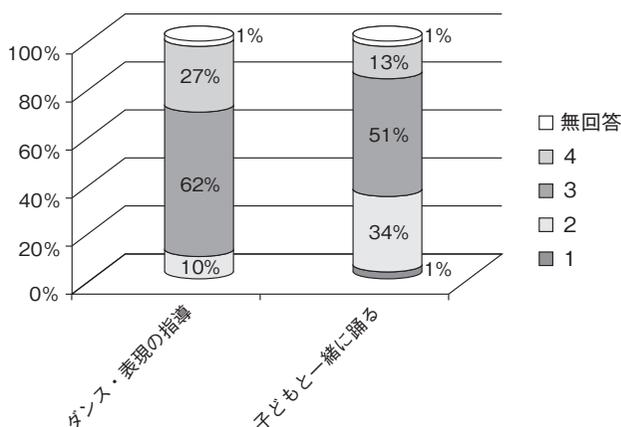


表 18 保育者になった時のダンスや表現の指導

	問 5 - ①		問 5 - ②	
	人数	割合	人数	割合
全くやりたくない	0	0%	1	1%
あまりやりたくない	14	10%	50	34%
少しやってみたい	90	62%	74	51%
積極的にやってみたい	40	27%	19	13%
無回答	2	1%	2	1%
計	146	100%	146	100%

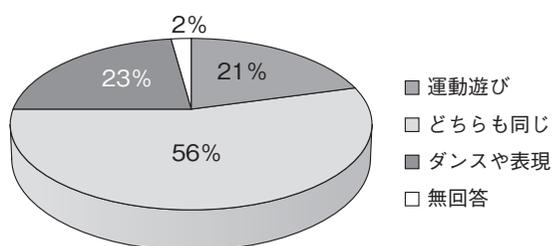
将来保育者になった時、子どもにダンスや表現を教えることや、を積極的にやりたいか否かについて回答を求めた結果、「少しはやってみたい」を含めやってみたいと思う学生は72%と多かった。しかし、子どもと一緒にダンスを踊ることは、「あまりや自信がない」「全く自信がない」と回答する学生が35%いた。したがってダンスや表現の指導はやりたいが子どもと一緒に踊ることには消極的な学生が多いことが伺え、ダンスが不得意とする学生が多いこととの関係が推察される。

他の運動遊びの指導と比べてダンスや表現の指導はやりやすいか否かについて回答を求めた結果は図12、表19に示す。半数以上の学生はどちらも同じ程度と回答しているが、21%は運動遊びを選び、23%の学生はダンスや表現のほうがやりやすいと選択していた。

表19 運動遊びの指導との比較

	問5-③	
	人数	割合
運動遊び	30	21%
どちらも同じ	80	56%
ダンスや表現	33	23%
無回答	3	2%
計	143	100%

図12 運動遊びの指導との比較



6 ダンスや表現能力の自己評価レベル別に見た子どもへの指導

「ダンスや表現能力についての自己評価（5段階評定法）」7項目（①リズムカルに動くこと、②動きを覚えること、③動きを考慮すること、④考えを動きで表すこと、⑤イメージやアイデアを描くこと、⑥音楽に合わせて踊ること、⑦グループのリーダーになること）の評価点を合計し、評価点の高位グループ、中位グループ、低位グループの3グループに分けた。そして子どもへの指導についてグループ別に違いを検討することにした。なお、自己評価平平均値は23であった。

表20 ダンス・表現の自己評価レベル分け

評価レベル	自己評価点（合計）	人数
3	25～	38
2	21～24	68
1	～20	38
	無回答	1

表21 自己評価レベル3（高位）のグループ (人数)

	ダンス・表現の指導	子どもと一緒に踊る	運動遊びとの比較
1	0	0	3
2	1	5	22
3	19	21	12
4	18	12	—
合計	38	38	37

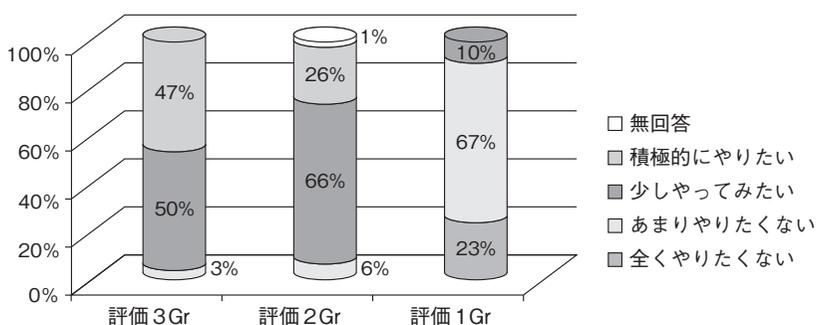
表22 自己評価レベル2（中位）のグループ (人数)

	ダンス・表現の指導	子どもと一緒に踊る	運動遊びとの比較
1	0	0	16
2	4	22	35
3	45	39	16
4	18	6	—
無回答	1	1	1
合計	68	68	68

表23 自己評価レベル1(低位)のグループ (人数)

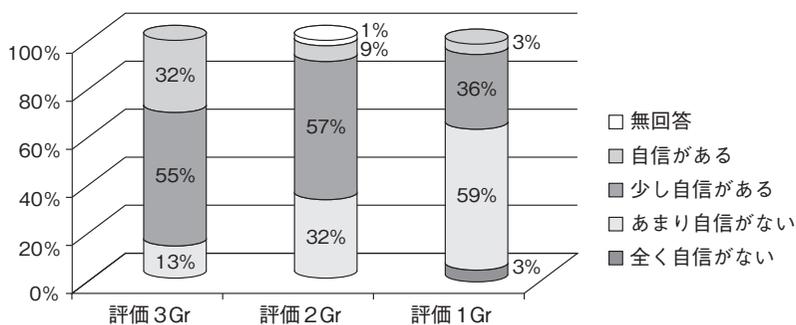
	ダンス・表現の指導	子どもと一緒に踊る	運動遊びとの比較
1	9	1	11
2	26	23	23
3	4	14	5
4	0	1	0
合計	39	39	39

図13 子どもにダンスや表現を教えること



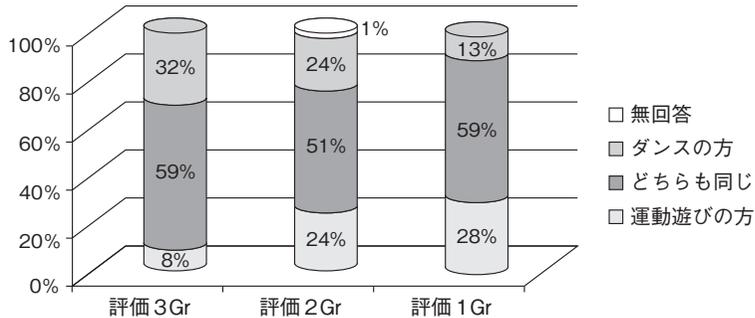
① 子どもにダンスや表現を教えることは、自己評価高位のグループ（評価3Gr）が積極的にやりたいと考える学生が多く、自己評価低位のグループ（評価1Gr）では、やりたくないと考える学生が多いことが明らかとなった。

図14 子どもと一緒に踊ること



② 子どもと一緒に踊ることも同様に、評価3Grは自信がある学生が多いが、評価1Grは自信のない学生が多いことが明らかとなった。

図 15 運動遊びとの比較



- ③ ダンスや表現の指導は運動遊びに比べてやりやすいか否かについては、評価の高いグループの方がダンスの方がやりやすいと考えており、評価が低いグループの方が運動遊びの方がやりやすいと考えていることが明らかとなった。

以上のことから、ダンスや表現の自己評価が高い方が、自信を持って子どもと一緒に踊ることができ、ダンスや表現の指導に積極的な関わりができることが示唆される。そのためには、自己評価を高める学習の工夫が必要であろう。

【まとめ】

これまでの調査を基に新たに作成したアンケート調査票によって、保育専攻の学生の表現やダンスに関する意識、およびダンスや表現に関する自己評価について調査した結果、以下の事柄が明らかとなった。

- ① 半数以上の学生がダンスが全般に好きであり、嫌いな学生はわずかであった。しかし、ダンスの得意・不得意については、「得意」と回答した学生はわずかであり、「不得意」な学生は約3割と多かった。また、ダンスを踊ることが好きな学生は半数以上であり、嫌いな学生はわずかであり、ダンスの好き・嫌いと同様の傾向であった。したがって、ダンスは好きで踊ることも好きであるが得意であるとはいえない学生が比較的多いと言える。
- ② 授業で表現課題については、「少し難しい」、「難しい」との回答が多く、創作することの難しさが伺え、表現においては考えを動きで表すことが難しいようであった。しかし、グループで活動し、考えを出し合ったり動きを考えたりすることはやり易いとする学生が多いことから、創作はグループ活動が適していると言えよう。
- ③ 自分のダンスや表現能力について、7つの観点について5段階から選択することを求めた結果、自己評価の多い項目は「動きを覚えること」や「音楽に合わせて踊ること」であり、低い評価の多い項目は「動きを考えること」や「グループのリーダーになること」であった。したがって、考えることよりも踊ることの方が得意と考える学生が多いと言える。
- ④ ダンスや表現運動と自分の感性との関係については、「関係ある」と回答する学生が多かったことから、表現活動には自分の感性が関わると認識していることが分かった。

- ⑤ 将来保育者になった時の指導については、ダンスや表現の指導はやりたいが子どもと一緒に踊ることには消極的な学生が多く、ダンスが不得意と考える学生が多いこととの関係が推察される。

また、運動遊びの指導と比べてダンスや表現の指導はやりやすいか否かについては、半数以上の学生は同じ程度と回答していた。

- ⑥ ダンスや表現能力についての評価点の高位グループ、中位グループ、低位グループの3グループに分け、将来保育者になった時の指導について比較検討した結果、子どもにダンスや表現を教えることは、自己評価高位のグループは、積極的にやりたいと考える学生が多く、子どもと一緒に踊ることも同様に、自信がある学生が多かった。自己評価低位のグループは、子どもにダンスや表現を教えることはやりたくないとする学生が多く、子どもと一緒に踊ることも自信のない学生が多いことが明らかとなった。ダンスや表現の指導は運動遊びに比べてやり易いか否かについては、自己評価高位のグループの方がダンスの方を、自己評価低位グループの方は運動遊びの方がやりやすいと考えていることが明らかとなった。

以上のことから、自信を持って子どもと一緒に踊り、ダンスや表現の指導に積極的な関わりができるためには、自己評価を高める授業の工夫が必要であり、今後のカリキュラムでは学生自身のダンスや表現力を高める授業内容が望まれる。

【参考文献】

- 1) 雨ヶ崎俊子編著 「ダンスの授業」 東洋館出版社 1991
- 2) 宮下恭子 「表現・ダンスに対する意識とその学習における自己評価と課題」 2004年5月 日本保育学会第57回大会 発表論文集 P 556-557
- 3) 宮下恭子 「保育専攻学生の表現・ダンスに対する意識とその学習における自己評価」 2005年3月 東京成徳短期大学紀要 第38号 P 67～P 79
- 4) 宮下恭子 「表現・ダンスに対する意識と保育者資質 —保育専攻学生への調査から—」 2007年8月 日本幼児体育学会第3回大会研究発表抄録集 P 62-63
- 5) 宮下恭子 「表現あそびの指導に関する課題 —幼児体育の授業を通して—」 2008年5月 日本保育学会第61回大会発表論文集 P 563
- 6) 宮下恭子 「表現運動の指導と課題」 2009年3月東京成徳短期大学紀要 第42号
宮下恭子 「表現あそびの指導に関する課題 その2 —2年間の授業を通して—」2009年5月 日本保育学会第62回大会発表論文集 P 570
- 7) 村田芳子編著 「楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス」 小学館 2002